

精神科領域に用いられる漢方薬について

先日統合失調症の患者さんのご家族向けの集まりにて精神科領域に汎用されている漢方薬について講話いたしました。副作用の対処から、精神症状の緩和等に用いられる漢方薬について説明しました。以下にその要約をまとめました。

抗精神病薬による治療を行うと様々な副作用（有害事象）を生じてしまうことがあり、その時々で対処する必要があります。表1. に抗精神病薬の副作用の対処方法を示しました。

副作用	薬物以外の対処法	一般薬剤	漢方製剤
便秘	排便習慣の改善, 食物繊維の接種, 水分補給, 運動習慣	酸化マグネシウム センノシド, ピコスルファート アミティーザCap ゲーフィス錠 リンゼス錠	大承気湯, 大黄甘草湯, 大建中湯, 桂枝加芍薬湯, 麻子仁丸, 潤腸湯
口渇	唾液腺のマッサージ, 口呼吸の改善	サリベートCap	白虎加人参湯
ふらつき	落ち着いた行動	ミドドリン, アメジニウム	苓桂朮甘湯, 半夏白朮天麻湯
体重増加	運動習慣等	* オルリスタット	防風通聖散
吐き気	食事の質・量の調整や食べ方	モサプリド, メクロプラミド, ドンペリドン	茵陳五苓散
下痢	水分調整や油脂質の多い食事を控える	タンナルピン, ロベミンCap	半夏瀉心湯
不眠	睡眠習慣の改善(環境・寝具の改善含む)	睡眠薬, 抗不安薬, 抗うつ薬	加味帰脾湯, 酸棗仁湯

表1. 抗精神病薬の副作用の対処方法

一般的薬剤による副作用の緩和は可能ですが、便秘症における瀉下剤は特に薬剤耐性ともいえる症状で薬用量を増やさないと排便が困難になるケースが多いことが知られております。そのような時に、世界で一番使用されている漢方薬である大建中湯が活躍します。お腹の張りを緩和し、排便リズムを整えてくれます。

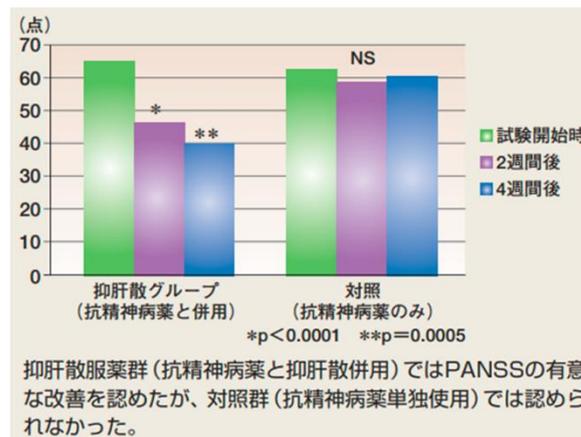
便秘症の他に、精神疾患治療薬による有害事象には様々な漢方薬が対応していることが知られており、数多く服用されておられる方もいらっしゃいます。

その中でも、注目され汎用高い漢方薬として抑肝散が挙げられます。

元来抑肝散は、怒りっぽい、興奮しやすい、イライラするなどの症状のある人に用いられる漢方薬です。また、これらの精神症状に伴い、眠ることができない不眠にも効果が期待できる漢方薬です。

近年、認知症の周辺症状の緩和に抑肝散が用いられることが多く認められます。衝動性や不眠の改善に注目されています。

統合失調症患者における衝動性にも、この抑肝散が有効であるとの報告も見受けられ、(グラフ1)漢方薬による精神症状の改善に一役かかっております。



Horiguchi, J. et al. PCN Rep. 2023, 2 (4) : e155.より引用

グラフ1. 抑肝散の症状改善効果 (PANSS)

また、抑肝散類似漢方処方を以下に示します。個々の症状に合わせての使い分けとなっているようです

・抑肝散加陳皮半夏

使用目標は似ているが、比較的体力が低下しており、症状が慢性化して、腹部大動脈の拍動が強い場合によいとされている

・柴胡加竜骨牡蛎湯

使用目標は似ているが、比較的体力があり、季肋下部の抵抗、圧痛（胸脇苦満）がみられる

・甘麦大棗湯

使用目標は似ているが、症状が急迫的で神経がたかぶり、全身・局所の筋肉の硬直、痙攣を伴う場合によいとされている

・加味逍遙散

虚弱体質な女性で四肢の冷え、動悸、不安、不眠など種々の精神神経症状を訴える場合に用いられる

・半夏厚朴湯

使用目標は似ているが、咽喉異物感や咳嗽を訴える場合によいとされている

・人参養栄湯

慢性疾患における体力低下、疲労倦怠、食欲不振、ねあせ、手足の冷え、貧血など（元気がない、無気力、意欲減退、抑うつ、ぼんやり）

★編集後記

漢方薬を今回は取り上げました。効果に即効性はないと思われがちな薬剤の一つです。お薬に対してこだわりが強い方がいらっしゃいます。わがままではなく、個体差で効果の有無が異なることの多い漢方薬ですが、使い方によっては副作用の危険も回避でき、正しき適切な利用で安心安全な薬物治療が行うことが可能となります。



薬剤科. 野村